

視聴覚教育

NO 57

発行 甲 1
 発行 市 AVL
 編集 岡崎集
 委員会 広報

「文部大臣賞」に輝く

岡崎市視聴覚ライブラリー

岡崎市視聴覚ライブラリーは、日本映画教育協会主催、文部省後援の一九七九年視聴覚教育賞論文でライブラリー部門に応募したところ、日本一の視聴覚教育賞（文部大臣賞）の栄に輝き、去る十月十七日に北九州市で開催された「教育の近代化全国大会」で表彰された。

この論文は「視聴覚教育の拠点としてのライブラリー運営」と題し、

①受動的なサービス機関としてだけでなく、能動的な指導機関としての運営

②自作視聴覚教材の積極的な制作活動の推進

③ビデオ部門の充実とその活用

をめぐすライブラリーの運営についてまとめたものである。

昭和二十九年「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」として産声をあげたライブラリーは、昭和四十八年、学校教育と社会教育が一本化し、現在の「岡崎市視聴覚ライブラリー」となった。発足以来二十八年、公立化以後七年目を迎える。先輩各位のご尽力が、ここに認められて今回の受賞となった。

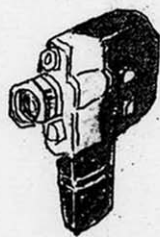
なお、過去において、視聴覚教育奨励賞は、協会時代（四十五年）と公立直後（四十九年）に受賞している。

自作ハミリ映画「しめなわ」も全国入選

視聴覚ライブラリー自作委員会（委員長白井正社愛右小教諭）の制作したハミリ映画「しめなわ」は、日本学校視聴覚連盟、全国視聴覚連盟等の主催する全国自作視聴覚教材コンクールにおいてみごと全国入選した。

作品は大門のしめなわづくりのうち、神社の鳥居にかけられる

「しめなわ」に焦点をあて、近藤卓教諭（矢北小）を中心とする制作班が一年がかりで撮影したものを十三分にまとめたものである。視聴覚教育賞と同様、北九州市で開催された全国大会の席上で表彰された。



『県学校視聴覚教育研究大会』盛会に終わる

—— 美川中は紙上発表 ——

昭和五十四年度の県大会は、去る十月十二日に豊橋市視聴覚教育センターで開催された。豊橋市は来年全国大会が開かれることになっており、今年はその中間発表ということ、新川小と羽田中の研究発表が行われた。会場が狭いこともあって、落ち着いて聞けなかったのは残念であった。

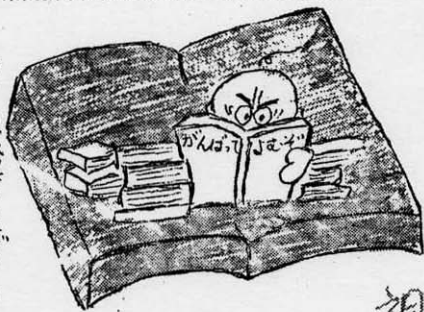
岡崎市からは十二名が参加した。なお、紙上発表として美川中学校が「テレビタイムの活用」と題し、七ページにわたって実践報告がなされ、多くのかたから賞賛をあげた。口頭発表は次の通り。

(1) 豊橋市立新川小学校

- ・ テーマ「豊かな人格形成をめざした学習指導法の改善」
- ・ 研究の要点——研究体制の確立（カリキュラム、日課表）、授業研究（基本指導過程の分析、確立）、映像読解能力の育成、発展学習、親子同時視聴、評価の方法、分析。

(2) 豊橋市立羽田中学校

- ・ テーマ「自ら学ぶ生徒の育成」
- ・ 研究の要点——視聴能力の向上、テレビ教材の有効性、單元への位置付け。



視聴覚機器を使つての

読みの指導

本校では去る九月二十五日の国語料研究テーマ「読む力を育てるしを発表するまでに、過去二ヶ年取り組み、その中で、次のような機器利用によって

多くの成果を上げてきた。
 全ての子どもが大きな声で自信をもって読めるための「音量」を考え、カセットの使用を全学級に取り入れ、効果を高めてきた。たとえば、レベルメーターを使用し「ここまで針がふれな」とじめたよじの指導で、一人一人で音量の練習を重ねさせた。次に、読む姿勢、口の開け方の矯正には、ビデオを使用して、その指導の徹底を促した。

以上、「読む力を育てる」ための機器利用をはかってきたが、今後も、機器利用の研究を重ね、より一層学習指導に効果を上げていきたいものだと考えている。